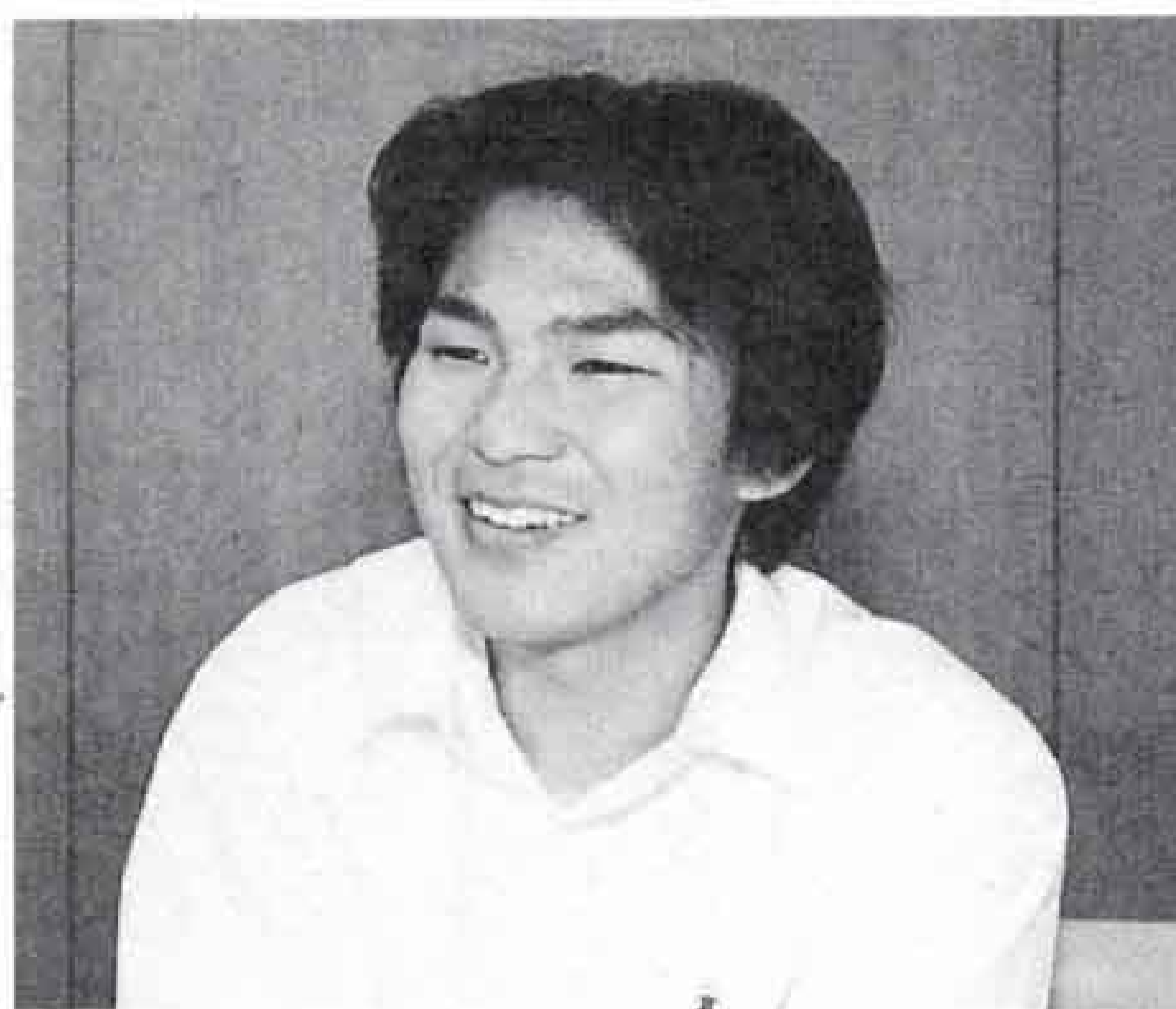


百人一首競技かるた
おぐらきけいさん 小倉忌慶讃全国競技大会で優勝した

斉藤 金洋さん
(富士高3年 比奈)



富 士高三年生の斉藤さんは、五月二十七日に京都にある本隆寺で行われた、百人一首競技かるた大会で、現役高校生として史上初の『優勝』という快挙を果たしました。

そもそも、高校に入学したら、文化部に入って勉強に集中しよう、気軽な気持ちでかるた部に入った斉藤さんですが、競技かるたの魅力にはまり、一年でA級（競技力でA・B・Cのランクがあり、最高級）に昇格し、かるた部の中心選手として活躍するほどになりました。

しかし、高校生が一般のA級選手と戦うには、経験面でも非常に厳しく、昨年この大会でも一回戦敗退の屈辱を味わいました。雪辱の気持ちを込めて挑んだ今大会でしたが、直前の練習では絶不調。それが逆にリラックスできたのか、大会当日は

持ち前の『粘り強い』戦い方で、強豪を次々と撃破。見事優勝を決めました。

斉藤さんは「決勝は一時間半の長丁場の試合になりました。優勝を決めた瞬間、正直なところ『あれ、勝ちちゃった』という感じでした。相手が終盤にミスしてくれたことと、勝負どころでの集中力が切れなかったのが勝因だと思います。

かるた競技は、相手との駆け引きがおもしろいです。試合内容によっては、あえて相手に札を与えることもあります。力を抜く場面、集中する場面を判断しながら試合をする、この緊張感がたまらないですね。今回の優勝で、かるたの世界では名が知れ渡ってしまいました。もう一回戦では負けられなくなりましたね（笑）」と話してくれました。

ズーメアップ

ふじ



新しい広見のシンボルを末永く
広見地区に山車保管庫が完成

広見地区では夏まつりを盛り上げ、『子どもたちが自慢のできるお祭りに』との願いで、昨年四月、新追町から山車を譲り受けました。しかし、保管場所の確保が困難で、広見公民館駐車場にシートをかけ、一時保管していました。

山車を末永く大切に使用していくためには、保管する建物が必要となることから、広見地区まちづくり推進会議で検討を重ねてきました。

保管場所を確保しようといういろいろ探しましたが、今は空き地でも将来どうなるかわからないことや、借地料のことなどを考えると、確保が困難であるとの結論となりました。

そのため、昨年広見公民館を通じて、鈴木市長に協力を要請したところ、市もこの要請にこたえ、五月十九日、広見公民館第二駐車場に、念願の山車保管庫が完成しました。

広見地区まちづくり推進会議長の鈴木達巳さんは「広見地区住



▲完成した山車保管庫と山車

民の熱意や公民館、市の協力で、この山車保管庫が完成しました。これからはこの山車を生かし、和太鼓の打ち手の育成にも取り組んでいきたいと思えます。青少年の新たな目標として、『夏まつりで太鼓をたたきたい』とってもらえるような、広見地区にふさわしい太鼓の音を響かせたいですね。

今の子どもたちが、将来広見を離れても、夏まつりが近づくと思ってきて、山車を引き回し太鼓をたたき、そんな光景を夢見ながら、七月二十八日の夏まつりに向けて準備を頑張っていきたいと思えます」と話してくれました。